



国際深海科学掘削計画 (IODP) 研究航海関連活動報告書

提出年月日： 2017 年 7 月 25 日

氏名：古澤 明輝

所属機関・職名：島根大学 総合理工学研究科

活動の種類 (該当項目を残す)	1. 乗船 (port call)
IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Exp.367 South China Sea Rifted Margin
乗船時の役割	micropalaeontologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動も含む)	2017 年 2 月 8 日 ~ 2017 年 4 月 10 日
用務地 (国・都市)	中国・香港・南シナ海
<p>本活動における成果</p> <p>・ IODP Exp.367 の参加における成果報告. 私は平成 29 年 2 月 8 日~4 月 10 日の二か月間 JR に乗船し, micropalaeontologist の浮遊性有孔虫研究者として船上研究に携わってきました. 私に課せられた仕事は, 掘削された海洋コア中のコアキャッチャー部から微化石用試料を採取し, 浮遊性有孔虫化石を検眼することでそのコアの年代値を得ることを主目的として仕事を行いました. 私が携わった Exp. 367 は U1499. U1500 の二つの hole でしたが, 上部は比較的有孔虫試料には恵まれた層準が多く存在したために比較的年代層序の議論が難航することはありませんでしたが, 下部に行くにつれ年代増序の議論がまとまらずに大よその値しか割り出せないような層準も多数あり, 下部については中々うまくは進行しませんでした. 私の仕事は, もう二つあり, 一つは, 船上に設置された電子顕微鏡を用いて Exp.367 の航海で採取された浮遊性有孔虫, 底生有孔虫, 放散虫, 珪藻の微化石試料を洗浄, 配置し電子顕微鏡を用いた記録作成です. 今回参加した微化石研究者の中で比較的電子顕微鏡の扱いに慣れているのと, 英語が出来ない部分を補うために私から実行者を提案した形ではありましたが, 採取した検眼試料すべての層準で重要な種の電子顕微鏡写真を撮影し, 記録していく作業は船上研究においても, 私自身の研究, 勉強面においても非常に重要な役割であったと考えています.</p> <p>二つ目は, 微化石グループの最終報告会で使用する年代及び深度分布曲線の作成です. 研究の成果を一定の期間でグループごとに報告する機会が何度かあるのですが, そのすべてにおいて私は年代及び深度分布曲線の作成を行いました. 微化石グループで話し合いを行い決定した事項を基にして作成するものになりますが, 367 以外の研究航海でも参考にされる重要な図の作成を任せられ, 作成, 発表を行いました.</p> <p>私の撮影した電子顕微鏡写真や年代及び深度分布曲線を用いて微化石グループの会議試料を作成した時などは私のような若輩でも研究の役に立てている実感と共に, 周囲からの賛辞やお礼を受け取り, より研究に打ち込む起爆剤にもなりました.</p> <p>そのような活動の結果, U1499U1500 共にこれ以上細分化することのできない年代結果を示すことができ, 次回の 368 メンバーに託すことが出来ました. 決して私だけの成果ではありませんが, 日本人研究者として今回の結果が, 少しでも IODP の研究に役立てていければと思っています. 今後は論文として形を残し, 更なる発展に取り組んでいけるよう励んでいきます.</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org)でご提出ください。



国際深海科学掘削計画 (IODP) 研究航海関連活動報告書

提出年月日： 2017 年 04 月 11 日

氏名： KanHsi Hsiung

所属機関・職名： ODS, JAMSTEC

活動の種類 (該当項目を残す)	1. 乗船 (port call)
IODP 研究航海番号 および航海名	Exp367 South China Sea Rifted Margin
乗船時の役割	Sedimentologist
出張期間 (移動も含む)	2017 年 02 月 07 日 ~ 2017 年 04 月 10 日
用務地 (国・都市)	Hong Kong to Hong Kong
本活動における成果	
<p>During EXP 367, I worked in Core Describer group as sedimentologist in night-shift. Sedimentary core describing into the software Desclogik and Section-Half Multi-Sensor Logger (SHMSL) measurements were my main duty onboard. The intensity and types of Drilling Disturbance were described at the same time. We also chose some special/interesting layers for smear slide and thin section descriptions under microscopes. In the initial days, we wrote methods and learned the core flow and ship life. When we started coring and describing, night-shift and day-shift members meet at least 15 minutes earlier for cross-over every noon that we could lay out some issues and full the progress and well discussions. We discussed scientific questions with the EXP 368 sedimentologists for “two expeditions and one project” of South China Sea. The corroboration with Paleo, Geochemistry and Physical Property groups also goes very well. This is great team works by 34 Scientists of EXP 367 and with members of EXP 368.</p> <p>Sites U1499 and U1500 was drilled during EXP 367. In site U1499, drillers were penetrating to 1741.0 mbsf in ~52 % core recovery and logging from ~655 to 983 mbsf. In site U1500, the intervals 0 - 378.2 m and 494.6 - 641.2 m were washed down in Hole 367-U1500A. Finally, the penetration is up to 1529.0 mbsf with ~37% core recovery. In the 1379.1 mbsf of U1500B, basalt was recovered. The logging of U1500 is from 842 to 1042 mbsf. Stratigraphy between U1499 and U1500 probably can be correlated. The sampling party of EXP 367&368 will be in September, 2017 in TAMU, USA. The post-cruise research will be expected. Thanks a lot for providing the great opportunity and the supports from IODP/J-DESC.</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org)でご提出ください。



国際深海科学掘削計画 (IODP) 研究航海関連活動報告書

提出年月日： 2017 年 6 月 25 日

氏名：大園 宣明

所属機関・職名：山口大学大学院 創成科学研究科

活動の種類 (該当項目を残す)	1. 乗船 (port call)
IODP 研究航海番号 および航海名	EXP368 South China Sea Rifted Margin
乗船時の役割	Physical Properties (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動も含む)	2017 年 4 月 8 日 ~ 2017 年 6 月 12 日
用務地 (国・都市)	中国・香港、上海
<p>本活動における成果</p> <p>本航海では、Site U1501~U1505 まで計 5 つのサイトを掘削した。そのうちコアが採取できた Site は U1501、U1502、U1504、U1505 の 4 サイトである。本航海における掘削サイトは、EXP367 で得られたデータをもとに、Proposal の研究目的を達成するために決定された。</p> <p>船内では Physical Properties の従事者として、主に Whole round core のガンマ線透過密度、帯磁率測定、P 波測定(これらは 3 つのステータスは一連の測定である)、自然ガンマ線強度測定の 2 つ測定を行った。測定データに誤差が生じていないかどうかを確認するため、測定中は常に測定されたデータを確認し、キャリブレーションを徹底した。</p> <p>またこれら以外の業務として、分割コアの P 波測定と熱伝導率測定、Moisture and Density(MAD)の測定にも従事した。これら 3 つの半割コアにおける測定は、担当した研究者がプレゼン作成等で手が空いていないときに従事することが多かった。</p> <p>以上のとおり、今回の航海における Physical Properties の測定については、従事した頻度の差はあるが、一通りすべての測定に従事した。得られた測定データの成果については、守秘義務の関係上ここでは割愛する。</p> <p>また、本航海では航海中の研究者個人でのサンプリングは禁止されており、サンプリングパーティーは 9 月末にテキサスで行われる。</p>	
備考	特になし

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org)でご提出ください。